

伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	第 32 回 まちなかエリア高度化 WG			
開催日	2026 年 8 月 3 日(月)			
開催時間	開会	18:00	閉会	19:30
開催場所	市役所 5 階 502 会議室			
出席者				
協議会・WG メンバー	会場：黒河内貴氏、政金裕太氏 O L：瀧内貫氏			
事務局・職員	会場：企画部企画政策課 井口大輔課長、有賀慎課長補佐 村田和也新産業技術推進係長 地域創造課 政金僚子集落支援員			
関係者				
欠席者	志知貴文氏、鈴木孝之氏、細谷啓太氏、土田智氏			
議事	1、官民共創の新しいまちづくり協議会 2 年間の振り返りアンケートについて 2、10/31(土)Park (ing) Day (仮称) の取組について			

議事項目	概要	次のステップ
1、官民共創の新しいまちづくり協議会 2 年間の振り返りアンケートについて		
2 年間の活動を振り返って ＜協議会全体＞	＜協議会全体の活動について＞ ＝協議会を通して行政と民間が一緒に活動してきた「官民共創」による成果、定着感課題感等＝ ○事務局 －WG メンバー、事務局からの回答を説明－ ○WG メンバー ・このまちづくり協議会は、高額な費用を掛けて 2～3 年間コンサルに委託するようなまちづくりとは違う。予算的には少ないが、いろいろな方々に関わってもらうことで、広くまちづくりに関わる人を増やすという特徴がある。成果が見えづらいことは最初から予測できていた。 ・もともと「いつまでに何をする」という目標がなかったことは課題ではあるが、ゆっくりと取り組む中で着実に広く分散的にまちづくりに取り組む人々を増やしている過程であり、すごくよいところまで来ていると思っている。 ・2 年間インプットに時間を費やしてきた。どこかのタイミングでトップダウン的にこれをやるという意思決定が必要かと思う。今回の Park (ing) Day (仮称) が	

<まちなかエリア 高度化 WG につ いて>	それにあたるのかもしれないが、ここまでくるのに少し 時間が掛かり過ぎた印象がある。 ○WG メンバー ・このまちづくり協議会は、ゆっくり広く市民をまちづ くり巻き込んでいくというやり方である。それゆえ に持続させるためにはトップの強い思いが必要であ り、それがないと消えていってしまう。 ・「不動産や資金を持っていて意思決定さえすれば自分 で何かができる人」が自発的に動いてくれるような段 階までいければよいが、現状は市の予算がいくらあつ て来年度は予算があるかわからないといったことに依 存している状況であり、なかなか先の道のりは長いと 感じている。 ○WG メンバー ・塩尻市の大門マルシェの取組は、個人個人は自分のや りたい生業をやりながら、それらが集まってまちが変 化している。例えばいなまち朝マルシェなど伊那市の まちづくりも塩尻市の形に近いと思う。 ○WG メンバー ・2 年間では効果を判断するのは難しい。ただ新しい形の まちづくり協議会ができたこと、お金を掛けずに進め てきた分コスパが良かったことは成果ではないか。 ・もっと 3 つの WG を束ねる動きがあった方がよかった と思う。最初の頃は 3 つ WG が一堂に会する機会があ ったけれど、そういった機会がなくなってしまった。 各 WG が全体の動きを把握していた方がとっとやり やすかったと思う。 <各 WG の活動について> = 地域にどのような影響を与えたか = ○事務局 ー WG メンバー、事務局からの回答を説明ー ○WG メンバー ・例えば西町で新しいお店がたくさん開店しているとい うような目に見える動きに対して、この WG が何か影響 を与えたかといえば与えていない。 ・しかし、例えば「対話の場」に継続して参加している方 で考え方が前向きに変わっていった方もいる。「対話 の場」に参加した市民一人ひとりにそこでの学びが蓄 積されているということまで地域に与えた影響とい うのであれば、影響はあったと思う。 ○WG メンバー ・これまでの WG の取組から、継続的にまちづくりに取 り組みたいという人が出ていないからダメではなく、	
---	--	--

協議会・WGの今後の方向性について	ピンポイントでも取り組みたいという人が出ている時点で地域に影響を与えている。 = 活動における課題 = ○事務局 －WG メンバー、事務局からの回答を説明－ ○WG メンバー ・WG の役割が明文化されるとわかりやすい。 ○WG メンバー ・最初は WG 活動のゴールが不明確でもよかったかもしれないが、1 年目が終わったあたりでも、どうやってまとめていくかを誰も考えていなかった。この WG から「ここまでやったら終わり」とは言えない。終わりが見えない出発をしたのは反省点である。 ・次に何か始めるとしたらゴールを明確にして、かつ小さな終わりをいくつも作っていかないと今回のようになってしまうというのが教訓である。 <協議会・WG の今後の方向性について> ○事務局 －WG メンバー、事務局からの回答を説明－ ○事務局 ・2029 年度からの市の総合計画を策定しなければならない。総合計画もまちづくり協議会の活動のように市民の意見を吸い上げながら策定していくものである。これまでのまちづくり協議会の活動でできた土壌を総合計画策定にも生かせないかと思う。 ○WG メンバー ・総合計画は、市が取り組んでいくことについて市民の意見を反映するのに対し、まちづくり協議会は、市民自らが主体的に関わって取り組んでいこうというものなので視座が明確に違う。総合計画では「これをやって」という声が挙がるのに対し、まちづくり協議会では「これをやりたい」という声が挙がる。 ○WG メンバー ・これまでのまちづくり協議会の「対話の場」での意見の中にも総合計画に反映できる意見があると思う。 ・これまでの「対話の場」での意見は貴重なデータとして蓄積されている。可能な範囲で質的・量的に分析してみたい。それによってニーズが浮かび上がる。ニーズを実現させるためにはどういった計画が必要か、計画を達成するためにはどういう条件が必要かという整理ができる。整理の結果、行政と民間の役割分担ができ、それが官民共創になるのではないか。	
--------------------------	---	--

その他意見について	・これまでのデータを精緻に分析することにより今まで見えていなかったことが見えてくるのではないかな。個人的にも分析してみたい。 ○事務局 ・WGメンバーの回答をとりまとめると、このWGをこのまま続けるのではなく、一旦解散して再編するような方向の回答になるかと思うがいかがかな。 ○WGメンバー ・市民の意見を聴く市の審議会等は、例えば商工業であったり教育であったり特定の分野に特化していると思う。このWGは存在することに意義があって、何かミッションがあるときは集中して機能するけれど、その他の期間はただ存在していて、いつでも意見を言ってもよいという「あるだけの価値」があってもよいのではないかな。 ○WGメンバー ・市民が意見を言う場である市の委員会、審議会などはほとんど自由度がなく、主体的な関わりはできない。そういった意味でも、いろいろな人がテーマに応じて自由に参加できるまちづくり協議会という場ができたことは本当によかったと思う。 ○WGメンバー ・お金は掛けないけれど、長期的にまちづくりに取り組んでいくというスタイルは新しかったかもしれない。自分も当初、WGの期限、メンバーの任期がないこと、目標がわからないことに違和感を持ったが、進めていくうちにそういう在り方もアリだと思うようになってきた。ただ都度目標は立てた方がよいと思う。 ○WGメンバー ・これまでの取組がどう評価されるにしろ、活動的な市民の方が一度挙げた「旗」の持って行き方を十分に考えて何かしら対応を取らなければならないと思う。 ・この地にずっと住んでいる方と移住者の方のまちづくりに対する温度感と持続力は違う。移住者の方が10年単位の長期的な取組では動けないのは仕方ない。行政としてどう継続した取組にしていくかやり方は考えるとして、例えば今年のPark (ing) Day(仮称)、来年のPark (ing) Day(仮称)の関わる人が入れ替わってもよいと思っている。 <その他意見> ○WGメンバー ・「対話の場」の告知方法と実際の参加状況を見ると、他の地域より参加者が多いと思う。積極的にそういっ	
------------------	---	--

	た場に参加するという伊那の市民性、まちづくりに対する意識の高さが表れていたと思う。 ・この WG がゆっくり進んでいたことについては、明確なゴールを設定していない以上こうなるのは当然である。2 年間でここまでの状況にするとか、他の WG のように明確な対象が設定されていない以上、対話の中で目標を見つけていくということがなかなか難しかったと思うが、ゆっくり進めたことによって、その効果がじわじわと広がる無理のない進め方であったとも思う。	
2、10/31(土)Park (ing) Day (仮称) の取組について		
「まちなか作戦会議」の振り返り Park (ing) Day (仮称) の進め方について	○事務局 ー6 月 28 日開催「まちなか作戦会議」報告書中、A～D グループのグループワーク結果について説明ー ・Park (ing) Day (仮称) では、今回単発の取組であることと開催時期を考慮すると、C グループ案「出会える飲み歩き『裏』街道」をメインに取り組むことがよさそうと考えるがいかがか。 ○WG メンバー ・時期的に B グループ案「春よ来い（恋）ー桜クエストー」以外の、A グループ案「山寺駐車場の可能性『居場所づくり』」、C グループ案「出会える飲み歩き『裏』街道」、D グループ案「いなまち SANPO 部『いなブラリ』」3 つの取組のうち、できるものは一緒にやればよいと思う。 ・例えばアーバンスポーツで遊べることにプラスして、どこかに飲食の提供もあるなど、3 グループ案を組み合わせ実施すればよいと思う。 ・山寺駐車場から坂下神社までを歩いて楽しんでもらえる仕掛けができればよい。 ○WG メンバー ・沿道のお店に協力してもらい、その日だけ使えるチケット等を発行してもらえればと思ったが、沿道に店がないので路地を巡るスタンプラリーなどの歩きとなる仕掛けができればと思う。 ○WG メンバー ・山寺駐車場、坂下神社はもとより、道路沿いにある駐車場等を当日借りられるかを所有者に確認したうえで、前回の「まちなか作戦会議」参加者に、「このスペースが使えます」という情報を伝えると、何か「やりたい」というレスポンスがあるのではないか。 ○WG メンバー	

	・山寺駐車場は、同日開催の 17 とりどり祭の駐車場になると思うので気を付ける必要がある。 ・山寺駐車場では、数台分の駐車スペースを借りて、伊那北駅方面に向かう人、坂下神社に向かう人の起点として何か設置できればよいのではないかな。 ・昨年 17 とりどり祭は 16 時までだったので、飲み歩きをテーマとして、時間をずらして夕方からの開催にしてもよいかもしれない。暗くなった道をどう楽しむかを考えるのも面白い。 ・何をやるかは、「まちなか作戦会議」で作成した地図に貼られた付箋が参考になるかもしれない。 ○WG メンバー ・盛大にやらなくてもよい。使える場所を確定してキッチンカーを出してもよいし、それだけでも Park (ing) Day (仮称) になる。 ○WG メンバー ・将来が想像できる空間として、花屋や造園業者で植物をレンタルし、人工芝も敷いて植物に囲われた空間を作ってみたい。伊那保育園の駐車場でやれたら一番よい。1 日の体験を通して、「こんな緑の空間があればいいよね」という声が挙げれば実現に向けての足がかりになる。 ○WG メンバー ・Park (ing) Day (仮称) で何をやりたいかのアイデアを募り準備してもらう「対話の場」が必要である。 ○事務局 ・前回「まちなか作戦会議」のアンケートで主体的に関わりたいと回答してくれた参加者に連絡する程度の小規模な「対話の場」でよいのではないかな。 ○WG メンバー ・ほかに考えられる取組はあるか。 ○WG メンバー ・テーブルやベンチ、パラソルなどの日除けの設置でもよいし、ウッドチップを撒いたり、沿道の茶道教室にお茶を出してもらったり、美容室に青空カットをしてもらうなども考えられる。 ○WG メンバー ・ある程度こちらでやることを決めてやりたい人を募集するか、やりたい人に集まってもらってやることを決めたらよいかな。 ○WG メンバー	
--	---	--

	・使える場所の確認をし、「ここではだいたいこんなことをする」という大枠だけ決めて、やりたい人を募集すればよいのではないか。 ○WG メンバー ・一度山寺駐車場から坂下神社までの『裏道』を WG メンバーで歩いてみることにする。	－『裏道』の現地視察－ 日時 8月7日(金) 朝 7:30 (打合せ含め 1 時間程度) 場所 山寺駐車場集合
--	--	--

■今後のスケジュール

<Park (ing) Day (仮称) の現地視察>

- ・日時 8月7日(金) 7:30～8:30
- ・会場 山寺駐車場 集合

<日本福祉大学ワークショップ>

- ・日時 8月29日(土) 13:00～16:00
- ・会場 伊那公民館 2階講堂

<Park (ing) Day (仮称) >

- ・日時 10月31日(土) 時間未定
- ・会場 山寺駐車場～坂下神社の裏道 (仮)